

## 第 141 話<15 人の侍>の要約と参考資料

### 第 141 話<15 人の侍>の要約

教職員組合岩戸小分会の 15 人の教師たちは、閉山から 9 年後の土呂久鉦山跡に埋もれかけた公害調査を始めました。調査結果を発表したのは西臼杵郡教育研究集会。報告に立ったのは、大正中期に土呂久で垂ヒ焼きを始めた「樋の口」と縁を結んでいた齋藤正健教諭でした。

### 第 141 話<15 人の侍>の参考資料

#### 1 4 1 - 1 岩戸小教師の調査

『土呂久鉦害』を告発した岩戸小の“15 人の侍”（週刊朝日 1972 年 2-22 号）より

土呂久が有名になるきっかけをつくったのは、この地区を学区に持つ岩戸小学校の先生たちだ。岩戸小は児童数 451 人、そのうち 40 人が土呂久地区から通学している。近い子で約 1 時間、遠い子は 2 時間も山道を歩いてかよってくる。転勤してくる先生たちは、この子たちを見ながら、不思議に思ったという。土呂久の子どもは、他の地区の子どもにくらべて顔色が悪い。体格も小さいし、体力も弱い。

「これは土呂久にある鉦山の跡と関係あるにちがいなかろう、とみんなうすうす思ってしまったとです。でも、なんとなくそのままになっていた。それを、昨年 5 月、もっとくわしく調べてみよう、ということになったんです」と、宮崎県教組岩戸小分会の荻原紘一教諭（30）は当時を回想する。（略）

学年初めの家庭訪問に歩くと、あちこちにズリと呼ばれる鉦石カスの堆積場がある。そこには草 1 本はえてない。そういうところで子どもたちは毎日遊んでいる。

ちょうど、日教組の教育研究集会に向けて、同小学校の戸高靖教諭（38）、永田収教諭（32）、齋藤正健教諭（28）の 3 人が、推進委員に決っていた。「いい機会だ、本格的に鉦山との関係を調べてみよう」。そこで、荻原分会長とこの 3 人の先生が中心になって、分会の 15 人の先生たち全員が調査に当ることになった。

土呂久と他地区との小中学生の体位、体力の比較、子どもたちがズリで遊んだときのようす……などを、まず調べた。役所や保健所、公民館などにある資料もひっくりかえしてみた。全戸に対するアンケートも行なった。これには 53 世帯中 46 世帯が回答を寄せた。めんめんとこれまでの苦しみを書いてくる人が多かった。それぞれの家に出かけて直接話も聞いた。住民との座談会も開いた。（略）

こうして岩戸小分会の先生たちの土呂久鉦害のレポートは、まとまっていった。発表には、若くて最も精力的に取組んだ齋藤教諭があたることになった。まず昨年 10 月末の郡の教研集会で、次いで新しいデータを加えて 11 月中旬に県の集会で、発表した。さらに、

今年 1 月 15 日から 18 日まで甲府市で開かれた全国教研集会の「公害と教育」分科会で報告、いちやく脚光を浴びた。(略)

しかし、斉藤教諭がこの研究にとりわけ力を入れたのには“個人的理由”もあったようだ。彼が一昨年結婚したクニ子夫人(20)は土呂久の出身だった。クニ子さんの実家は、昭和 29 年にできて 37 年まで操業していた一番新しいカマの近くだ。

#### 1 4 1 - 2 齋藤正健教諭の活躍

齋藤正健筆「土呂久鉍毒事件告発と私」(1974 年 4 月 7 日 ; B4 版手書き 82 枚) より

昭和 41 年、教師生活 1 年目、私はかわいい 2 年生 32 名を受け持たされました。(略) この中の A 君こそ、土呂久部落児童の健康異常に疑問を持たせ、心配させる最初のきっかけになったのです。(略) 学級の副委員長として活躍していた児童でしたが、顔色が悪く、しばしば胸痛を訴えました。痛みで顔をゆがませながら胸をおさえて、「痛い、先生、痛い」と言って来る時は、かわいそうでもたまず、どう言ってなぐさめてよいか、その言葉すらじゅうぶん言えないほどでした。(略)

土呂久児童の体位、体力が全般的に他の部落児童より劣り、顔色がすぐれないということ(もちろん例外はあります)は、児童朝会や部落球技大会でだれの目にもはっきりわかり全職員の共通話題でした。ある先生は「調査してみると、びっくりするようなことがわかりかも知れない」ともらしていられました。(略)

昭和 42 年、教師生活 2 年目、この年も受け持ちは 2 年生で、31 名の児童(土呂久児童 3 名)でした。家庭訪問も 2 回目を迎えましたが、この時、私は、土呂久部落と近い東岸寺部落で異様な光景を見て驚きました。小学校を 2 キロほどはいった土呂久道路を歩いていますと、右手約 500 メートルの地点に草 1 本生えていない、巨大な黄土色をした土の山があるのに気づきました。よく見ると、日光の当たり具合により、色、形が刻々変わるのです。素晴らしい芸術品のようなのですが、見ていれば見るほど不気味に思えてきました。(略)

土呂久のようすについて述べてみましょう。(略) 1 年目には、鉍山跡のよく見わたせる「惣見」には児童がいなかったので、亜硫酸製造跡の現場をじゅうぶんに見ることができませんでしたが、この年には児童がいましたので、甘ずっぱい臭いと共に、実感をもって現場の状態をくわしく知ることができました。(略)

さて私は昭和 45 年 5 月 30 日に結婚して、現在一児の父親ですが、妻をはじめて知ることになったのは、約 2 年前の昭和 43 年 3 月 20 日頃でした。私自身のことで恥かしいことですが、真実を述べるという意味で、あえてその知った日のことを告白します。ふとしたことで会うことになったのですが……。妻の小学時代のことを知ろうと思い、急いで学校のロッカーをあけ、指導要録抄本を見ました。この時、私は、妻の苦しい小学生時代を思い知らされると共に、土呂久児童の健康異常が、土呂久鉍山と何らかの関係があると

の疑いを一段と強めさせる結果になりました。それは、妻の出身地が土呂久部落で鉾山跡のど真中に位置しているのを、妹が小学校にいたので（当時 5 年生）知っていたからです。では指導要録に記載されていた妻の健康に関する事項を原文のまま書いてみます。

教師生活 4 年目（昭和 44 年）は、34 名の 6 年生の受け持ちで、土呂久児童は 4 名でした。この年の 12 月 10 日に岩戸小学校で、宮崎県西臼杵郡指定岩戸地区 PTA 研究公開が持たれましたが、土呂久部落の親子会の発表は、この鉾山問題を取り上げました。（略）紙上発表という形で、岩戸小の体育館の壁にこの調査がはられました。

#### 土呂久鉾山

鉾石の種類 すず、なまり、硫化鉾、ダンビュライト

昭和 15、6 年ごろ従業員は 400 人ほどもいた。岩元（東岸寺部落の地名で先述した巨大な山の近く）で選鉾し、土々呂へ送られた。飛行機作りなどに役立っていた。

硫化鉾からあひさんも焼いていた。人畜や農作物に被害もみられ、付近の人々は家を移転するほど大きな害だったという。昭和 37 年ごろ閉山。

土呂久子供会

この他に亜硫酸製造に関する絵地図を 1 枚つくり上げていました。

教師生活の 5 年目（昭和 45 年）4 年生 31 名（土呂久児童 4 名）の児童を受け持ちました。さて、この年の 10 月 3 日に、私は土呂久についての新聞記事を初めて目にしました。それは朝日新聞の宮崎県版でかなり大きな記事でした。土呂久問題にピリピリしていた時だったので、この記事を読むや、行政当局の不誠実さに改めて大きな怒りを覚えました。（飲んでいたヒ素入り水（高千穂町土呂久南）/ 住民無視と怒る地元）（略）

教師生活 6 年目、土呂久鉾毒事件を告発した年（昭和 46 年）は、3 年生の担任となり、34 名の児童（土呂久児童 3 名）を受け持ちました。（略）このような経過をたどって、私はこの年の 5 月、職場に「第 21 次日教組教育研究宮崎県集会」の研究テーマとして土呂久鉾毒問題をとり上げるよう提案しましたが、この提案を受けた 14 人の仲間はただちに引き受けてくれました。（略）

それは暑い夏も終り近くになった 9 月でした。私たちはまず、草 1 本はえていない、妻の山である鉾さい、ズリと学童の健康の因果関係を調べる調査を開始したのです。（略）調査方法は、鉾さいやズリの山に対する学童の意識調査……（略）

これと並行してやったのが、私たちが気にしていた学童の体位の調査でした。調査方法は岩戸地区で鉾山から離れており、土呂久と同じ生活程度と見なされる部落の学童と土呂久部落学童の体位を比較するというものでした。（略）

同時に多くの調査を望むようになりました。「調査すればもっともっと何か分かるぞ」。このような気持ちで、鉾山操業を自分の目で見て体験されてきた地元の方々（土呂久、東岸寺、立宿）に次のような手紙を出しました。この手紙の返事によって、私たちは、鉾さいやズリの正体をつきとめ、土呂久鉾毒事件の全容を知ることになったのです。

東岸寺、土呂久、立宿のみなさんへ

岩戸小職場会

最近、公害問題がテレビなどでよく出ていますが、土呂久鉾山、選鉾所跡（東岸寺の巨大な山）について私達は子供の健康を守るため、みなさんの健康を守るために少しでも役立ちたいと思っいろいろ調査することにしました。他の県では鉾毒を流さないようにダム（せき）などを作っているのに、こちらでは土呂久にしても東岸寺にしても、ほとんど何もなされていないのが現実です。延岡では、土呂久、見立鉾山が原因だとして、2回も関係住民は全員延岡保健所により集団検診、それも精密な健康調査が行なわれているのです。岩戸では、いったい、どの程度の健康調査が行なわれたのでしょうか。

みなさん、みなさんのお子さんは、この毒のまじった川で水泳しているのです。私たちは教師として、人間として、だまっていられなくなりました。全力を尽して、町、県、国へ訴え、より安全な岩戸にするためにがんばっていくつもりです。そのためには、鉾山、鉾毒、アヒなどについて、できるだけくわしい資料がぜひとも必要なのです。今まで経験されたこと、いろいろな話、心配、願いをこの下にお知らせくださいますよう切にお願いします。

みなさまの協力のもと、せひ実りあるものにしていきたいと思っています。くれぐれもよろしくお願いします。

1枚の西洋紙にこの文を書き、この紙の下半分に空らんをもうけていましたが、このらんにおどろくべき返事が書かれ、次々と30通近く送られてきたのでした。寄せられてきては、あまりにももの内容に驚かされ、ヒヤッと背すじが寒くなり読んでいる手がガタガタふるえてきました。「これは大事件だ！ これは犯罪だ！ これは殺人だ！ 罪なき農民に何ということをして！」。私たちは、強い衝撃を受けて、卒倒せんばかりでした。と同時に、このようにさせてしまった鉾山当局、町（村）、県、国の行政当局に対し、この上もない厳しい憤りを感じ、隠されてきた理由がはっきり読みとれてきました。では、その一部を紹介しましょう。（略）

私たちは、最初の調査から2ヶ月もたっていない10月26日に土呂久住民の方々に集まってもらい、直接意見を聞くことができたのです。私を含めて3人で土呂久公民館に向けて出発したのですが、問題の深刻さに、車内は緊張でだまりがち、暗い土呂久谷に大きくこだまするエンジンの音とは対照的でした。出席者は13名、古びた公民館の大きないろりを囲んでの話し合いでした。（略）

職場で以上のような調査をするうちに、私はカメラを持って土呂久をかけまわり、危険な鉾さい、ズリの写真や、戦後再開された亜硫酸製造所、川原などの写真やスライドをとり続けました。（略）この年までは、宮崎県教職員組合教育研究集会には「公害と教育」の分科会がまだなかったのですが、日教組全国教育研究集会には、この分科会がありましたので、10月30日に発表した西臼杵支部教育研究集会には、支部と連絡をとって、この分科会を設けてもらい「公害教育」という題名で、私たち15名は30ページ近くのレポートを提出しました。その他、写真、スライド、そして鉾山と用水を示した図表と、簡単

な死亡分布図表（母の証言をもとにしたもの）も提示しました。（略）

このレポートを作ってくれた14人の仲間の先生方のありがたさがしみじみわかりました。

#### 141-3 15人の侍のひとりの回想

元岩戸小教諭永田収さんの話（2022年3月8日聴取）

1971年4月、高千穂町立上野小学校（5年間）から岩戸小へ、32歳でした。

齋藤君が発表者になっているが、教研集会で土呂久を取り上げようと提案したのは私。岩戸小校区の地区ごとに担当教員を置いていた。土呂久地区を担当したのは私。地区ごとに児童が集まったとき、「土呂久の子どもたちは背が低い」ことに驚いた。毎週1回の宮教組岩戸小分会の集まりで、私がそのことを言ったら、「土呂久には遊んだらいかん場所がある（ズリ山など）」という声も出て、それがきっかけで教研集会のテーマに土呂久を取り上げることになった。

私は、宮教組西臼杵支部の副支部長で組織部長をしていた。教文部長は別にいた。分会では、私が教文を担当した。西臼杵郡支部教研では、私が発表するはずだったのに、10月終りの発表の前に、齋藤さんが土呂久の女性と結婚していたこともあり、「発表しないか」と譲った。保護者からアンケートをとった。遊んだらいかん場所について。鉾山跡の雨水にいれて、金魚の実験をしたりした。教研の資料作り、ガリ切るのは分会でやった。支部教研の分科会は人権問題も含んでいたのも、岩戸小だけの発表ではなかった。出席者から意見がでたことで、補強することになった。

支部教研から県教研まで2週間に、住民にアンケートを送って健康調査をやった。行政にも行った。土呂久の方々の健康面を行政がとりあってくれなかった。県教研の資料作りは、パソコンももちろんなかったのでガリ刷り。夜遅くまでみんなで作った。教室に大きな模造紙を広げて地図を描いたことを記憶している。（誰が描いたか？）わからないが、興梠先生が字がうまかった。

風評被害で、シイタケや米が売れなくなった、土呂久の人から「どうかしろ」と言われた。

当時、人事院勧告完全実施を要求してストライキをやり、分会長以上が処分された。他の人は「反省しとる」ということで処分を免れた。自民党が組合をつぶそうとした。ストライキから学校に帰ってきて授業をしていると、「体育館にでてこい」と言われて行くと、児童たちの親が待っていた。ハンドマイクでだいぶ言われた。親たちの多くは帰るときに、「すみません。先生たちは4、5年で学校を去っていくじゃろが、わしらはずっとここに住むものじゃから」と、私たちに言って帰っていった。

人勧闘争と土呂久の発表は時期的に重なっている。

私は、労働運動をやったことで、署名まで取られて、岩戸小を3年で追いだされた。ふ

つうは5年なのに、71年4月に赴任して74年3月に転校させられた。他の男の先生たちは管理職の道を選んだ。女の先生で管理職になったのはいない。誰がいたか、先生たちの名前は覚えていない。岩戸小にいい思い出は残っていない。

「15人の侍（週刊朝日のタイトル“土呂久鉾害を告発した岩戸小15人の侍”）のうち14人は忘れられて、一人のヒーローが語られていくようになったのはどうしてだと思いか」と質問すると、「マスコミのせいだ」と、静かだがしっかりした声で言いきった。